



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：ヒズブッラーのシリア内戦への関与 (2)

(報道取り纏め)

シリア政府は、5月19日から、同国西部の町クサイルに対する攻撃を開始した。レバノンからシリア北部の反体制派への補給を断つことが目的とされた。シリア内戦の動向とは別に、同戦闘に、レバノンのヒズブッラーが参加したことから、アラブ世界や国際的な注目を集めた。クサイリでの戦闘は、6月5日、シリア政府軍が同町を奪回して終了した。政府軍は、クサイリから北部への攻撃を準備していると報道されている。

クサイリの戦闘にヒズブッラーの戦闘員が参加したことは確かなようであるが、その規模についてははっきりしない。自由シリア軍は、数千人が参加しているとした。仏国のファビウス外相は、5月29日に行った国民議会の証言で、アサド政権の支援のために介入しているヒズブッラーの戦闘員について、仏国は3000～4000人と推定しており、クサイルの戦闘には1700人が加わっていると述べている。クサイリでの戦闘後、ヒズブッラー戦闘員は北部のアレッポ付近に集結しているとの報道もある。

レバノンのヒズブッラーが、シリアの戦闘に参加したことで、アラブ世界のスンニ派の宗教指導者からの非難発言が続いた。5月31日には、カタルの宗教指導者ユースフ・カルダーウィー (Shaik Yusf al-Qaradawi) が、シリアのクサイルでの戦闘を支援するよう求めるファトワを発出した。6月7日のサウジ・ガゼット紙は、サウジの最高ムフティー兼最高ウラマー委員会委員長アブドゥアジーズ・アール・シャイフが、シリア内戦の関与したヒズブッラーを罰することを要求したと報道している。6月8日には、エジプトの宗教指導者ムハンマド・ジグビー師は、サウジのテレビとの会見でエジプト、リビア、チュニジア、アルジェリア、クウェイト、ヨルダン、イエメンのスンニ派の若者にシリアに行き、戦うよう呼びかけたと報道されている。

レバノン国内での衝突が増加することが懸念されてが、6月9日までの時点では、大規模な衝突は発生していない。6月初旬、米国は、シリア反体制派への武器支援について、重大な決定すると報道されている。ケリー国務長官は、6月9日から予定されていたイスラエル・パレスチナ訪問を延期した。